北東アジア環境活動交流会

东北亚环境活动交流会

동북아시아 환경활동 교류회

Встреча по вопросам проводимой работы в области экологии в регионе СВА

JP

北東アジア環境活動交流会概要

１　開催目的

県内の先進的な環境ＮＰＯ（環境サポーター）等の活動や北東アジア地域の地方自治体の市民との協力事業について情報交換し、今後の北東アジア地域での環境活動における地方自治体、環境ＮＰＯ等の連携・協力のあり方について協議する。

２　開 催 日　　2013 年 10 月 30 日(水) 10：00 ～ 17:00

３　開催場所　　オークスカナルパークホテル富山（富山市牛島町 11-1）

４　主　　催　　富山県

５　参加予定団体　　１０団体

［地方自治体］

日　　本（２）山形県、富山県

中　　国（１）黒龍江省

韓　　国（２）江原道、忠清南道

ロ シ ア（２）沿海地方、ハバロフスク地方

［環境ＮＰＯ等］

一般社団法人　でんき宇奈月プロジェクト

ＮＰＯ法人　森林総合支援センター

公益財団法人　砺波市文化振興会・砺波市美術館

６　全体日程

10 月 30 日（水）

10:00 ～ 17:00　北東アジア環境活動交流会

・事例発表会、現地説明会、意見交換会

（場所：オークスカナルパークホテル富山ほか）

≪参　考≫

10 月 30 日（水）

18:00 ～ 20:00　第 11 回環境分科委員会　レセプション

（場所：オークスカナルパークホテル富山）

10 月 31 日（木）

9:30 ～ 15:00　第 11 回環境分科委員会　（場所：オークスカナルパークホテル富山）

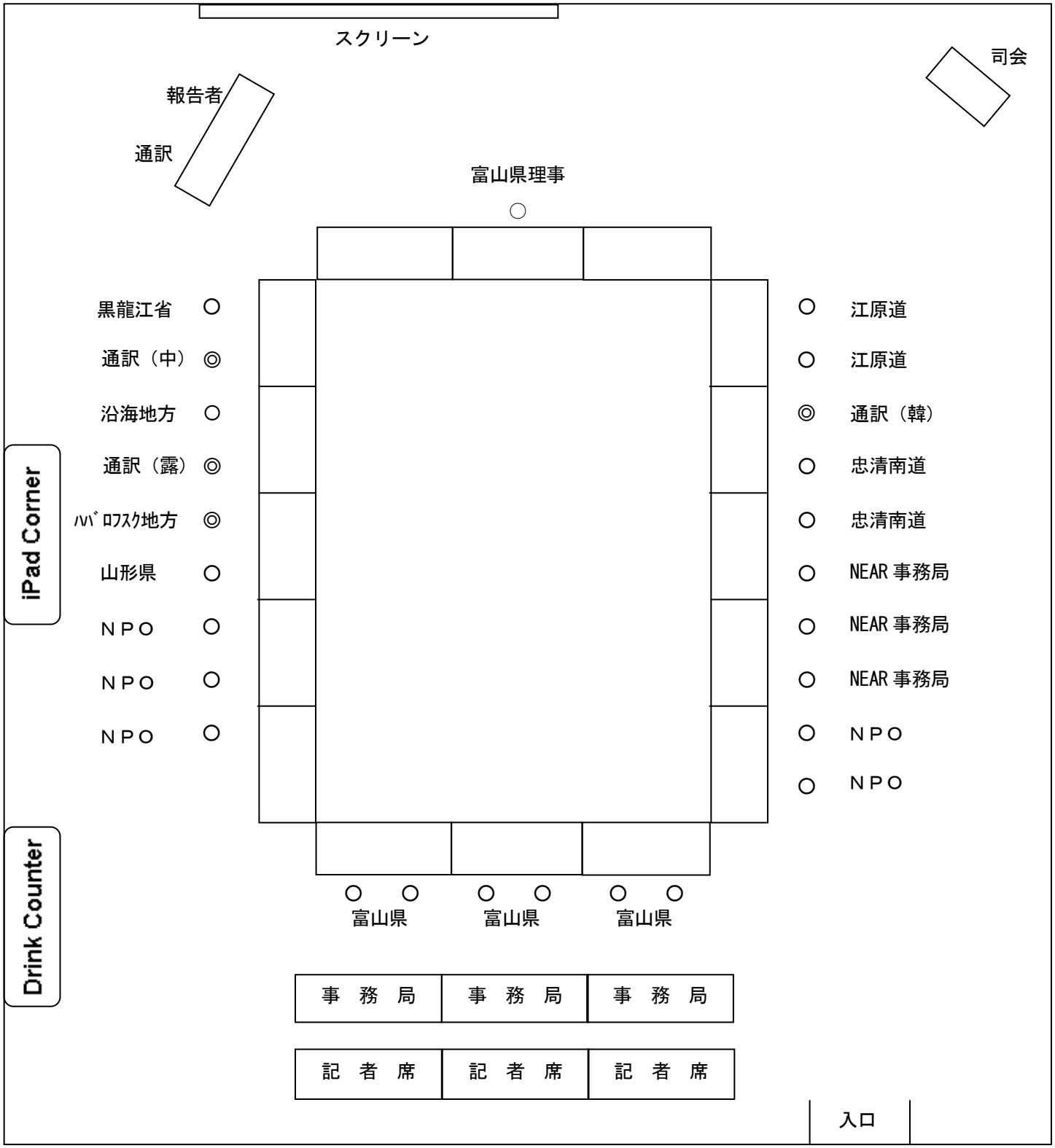
15:30 ～　エクスカーション

北東アジア環境活動交流会出席者名簿

国名	団体名		役職	氏名
日本	山形県	庄内総合支庁環境課	海岸漂着物対策主査	金内　美津枝
	富山県	生活環境文化部	理事・次長	小野　洋
		生活環境文化部環境政策課	課長	長田　知
	ＮＰＯ等	ＮＰＯ法人森林総合支援センター	理事長	鶴巻　登志広
			副理事長	石崎　千鶴子
		一般社団法人でんき宇奈月プロジェクト	理事	柴田　時和
		公益財団法人砺波市文化振興会 砺波市美術館「子どものぞうけいアトリエ」	彫刻家	藤井　治紀
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾅｰ	薮　道子
中国	黒龍江省	環境監測センター	センター長	伍　躍輝
韓国	江原道	グリーン資源局環境政策課	係長	金　福鎭
			主務官	朴　閔鎬
	忠清南道	環境緑地局環境政策課	事務官	朴　上煥
		広徳山環境教育センター	局長	車　守澈
ロシア	沿海地方	天然資源・環境保全部環境計画・放射線安全課	主コンサルタント	タラセンコ Y.G.
	ﾊﾊﾞﾛﾌｽｸ地方	天然資源省環境保全委員会	副委員長	ｳﾞｪｾﾛﾌｽｶﾔ O.V.
ＮＥＡＲ事務局	―	企画総務課	課長	朴　昌浩
			主要業務企画総括	呉　命浩
		国際協力課	日本専門委員	崔　守圭

北東アジア環境活動交流会　配席図

日時：2013 年 10 月 30 日（水）　10：00 ～ 17:00
場所：オークスカナルパークホテル富山　2Ｆ鳳凰東の間



北東アジア環境活動交流会

プログラム

期日　2013 年 10 月 30 日（水）
場所　オークスカナルパークホテル富山
　　２Ｆ 鳳凰東の間

10:00　開　　会
　開会あいさつ　　小野　　洋　　富山県理事・生活環境文化部次長
10:10　議　　事　座長　小野　　洋　　富山県理事・生活環境文化部次長
　Ⅰ　富山県における国際環境協力の推進
　　－環日本海地域の環境保全と人材育成－
　　長田　　知　　富山県生活環境文化部環境政策課長
　Ⅱ　事例発表①
　　１　清浄江原 21 実践協議会について
　　朴　　閔鎬　　江原道グリーン資源局環境政策課主務官
　　２　沿海地方における環境保全分野の活動事例について
　　タラセンコ Y.G.　　沿海地方 天然資源・環境保全部
　　環境計画・放射線安全課 主コンサルタント
　　３　海岸、河川敷利用者への普及啓発活動
　　金内　美津恵　　山形県庄内総合支庁環境課
　　海岸漂着物対策主査
10:50　質 疑 応 答　＜10:50～11:10＞
11:10　休　　憩　＜11:10～11:20＞
11:20　Ⅱ　事例発表②
　　１　黒龍江省における環境ＮＧＯの活動状況
　　伍　　躍輝　　黒龍江省環境監測センター長
　　２　広徳山環境教育センター設立における民・官協力事例
　　車　　守澈　　広徳山環境教育センター局長
　　３　ハバロフスク地方政府の民間環境団体との協力について
　　ヴェセロフスカヤ O.V.　ハバロフスク地方天然資源省
　　環境保全委員会副委員長
　　４　エネルギーの地産地消による地域の活性化を目指して
　　柴田　時和　　一般社団法人でんき宇奈月プロジェクト理事
12:00　質 疑 応 答　＜12:00～12:20＞
12:20　昼　　食　＜12:20～13:30＞
13:30　Ⅲ　現地説明会
　森林総合支援センターへ移動　　＜13:30～14:00＞
　　１　ＮＰＯ法人森林総合支援センターの紹介（現地視察）
　　鶴巻　登志広　　ＮＰＯ法人 森林総合支援センター理事長

15:00　インテックビルへ移動　　＜15:00～15:30＞

２　漂着物アート制作体験会について（発表、実習）

藤井　治紀　　公益財団法人砺波市文化振興会・砺波市美術館
「子どものぞうけいアトリエ」彫刻家

16:30　オークスカナルパークホテルへ移動　　＜16:30～16:40＞

16:40　Ⅳ　意見交換会

・全体質疑

・意見交換

・座長取りまとめ

閉　　会

Ⅰ　富山県における国際環境協力の推進

－環日本海地域の環境保全と人材育成－

長　田　　知　　富山県生活環境文化部環境政策課長

○はじめに

富山県では、日本海側唯一の国連機関として本県に設置されている北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）地域調整部を支援するとともに、環日本海環境協力センター（NPEC）を設立し、北東アジア地域の環境保全に関する国際協力や人材育成などに取り組んでいます。

2007 年には、日本、中国、韓国及びロシアの経済界、学界、自治体から多くの参加を得て、「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」を開催し、北東アジア地域の環境問題の解決に向けた「とやま宣言」が採択されています。

○北東アジア地域自治体連合について

北東アジア地域自治体連合（NEAR）は、北東アジア地域における自治体の交流・協力を進めることを目的に、1996 年に設立された組織であり、補助機関として 13 分野の分科委員会が設置されています。

富山県は、環境分科委員会のコーディネート自治体を務めており、日本、中国、韓国、ロシア、モンゴルの自治体と連携して、北東アジア地域の環境の現状と課題に関する情報交換や「とやま宣言」に基づく各種プロジェクトを実施しています。

○北東アジア地域の環境保全の推進

NEAR の枠組みを通じて、日本、中国、韓国、ロシアの沿岸自治体と連携して、海辺の漂着物調査や黄砂の視程調査を実施してきたほか、友好提携先の中国遼寧省と共同環境調査を行うなど、環境保全活動を推進しています。

海辺の漂着物調査

○国際環境協力を担う人材の育成

北東アジア地域の青少年による環境体験活動を推進するとともに、環日本海・環境サポーターとの連携や環境技術研修員の受入れを行うなど、環境 NPO 等との連携・協力を推進し、国際環境協力を担う人材の育成に力を入れています。

環日本海・環境サポーターとの連携

○国連機関と連携した海洋環境保全

富山県は、NOWPAP 地域調整部の運営を支援しているほか、NOWPAP の地域活動センター（CEARAC）に指定されている NPEC が実施するリモートセンシングや海洋ごみ、海洋生物多様性等に関する活動を支援するなど、国連機関と連携した海洋環境の保全にも取り組んでいます。

○今後の取組みについて

富山県は、循環型社会・低炭素社会づくり、自然環境や生活環境の保全にも積極的に取り組んでいます。

今後は、過去の公害問題の克服の経験のみならず、こうした取組みの実績やノウハウも活用して、NOWPAP や NEAR とも連携協力しながら、環境モニタリング体制等の構築や人材の育成等のプロジェクトを一層推進し、北東アジア地域の環境保全に貢献していきます。

Ⅱ　事例発表 ①

1　清浄江原 21 実践協議会について

朴　　閔 鎬　　江原道グリーン資源局環境政策課主務官

1　活動目的

－1992 年ブラジルのリオで開催された、環境と開発に関する国際連合会議(UNCED：United Nations Conference on Environment and Development)において、リオ宣言文とアジェンダ 21 が採択されるとともに 地方自治体ではローカルアジェンダ 21 を策定して推進することが勧告された。

－ 清浄江原 21 実践協議会は、江原道の快適な自然環境の保全や持続可能な発展、地球環境保全及び住民の生活の質の向上のために住民、企業、民間団体、江原道が協力して具体的な実践プログラムを開発し、推進するために設立された。

2　活動期間 ： 2000 年 9 月 ～ 現在

3　活動対象地域 ： 江原道全域

4　活動参加人数 ： 委員 50 名で構成

5　活動内容

－ 「自家用車に乗らない日-ノー・マイカー・デー」行事

－ 江原道内 8 ヶ所の市・郡で開催に協力
－ 9 月 22 日世界ノー・マイカー・デーの広報
－ 自家用車の利用を控えるキャンペーン
－ 公共交通や自転車利用の広報及びキャンペーン
－ 公共機関の駐車場の使用制限キャンペーン
－ 「車のない街並み」の運営

－ 持続可能な発展 江原道大会

－ ローカルアジェンダ 21 の実践のための新しいビジョンと戦略の提示
－ 江原地域ローカルアジェンダ 21 の活性化のためのネットワークの増進
－江原道の持続可能な発展のために、地域住民と道内の主要懸案事項について議論

－ 江原道におけるグリーン環境実践に関する事例等の募集や大会の開催

	－ グリーン生活の優秀事例、グリーン実践関連作文、ポスター展 － 道内の小中高校生の環境サークルプログラムコンテスト

－ 気候変動対応事業

	－ グリーンリーダー養成教育 － 「訪ねる気候学校」（体験教室）の運営 － 江原子ども環境キャンプの開催 － グリーンリーダーのパワーアップワークショップの開催 － 気候変動対応のための市民の役割の普及啓発 － その他、様々なキャンペーン

６　成果や今後の予定など

－ 持続可能な発展の制度化の推進

－ 自発的な市民参加の習慣の確立と民間協力を通じたローカルガバナンスの基盤づくり

－ 地球規模の環境問題を地方レベルで認識し、実践するためのきっかけづくり

－ 持続可能な地域発展に対する住民の理解を深めるとともに、社会的気運を醸成

Ⅱ　事例発表 ①

２　沿海地方における環境保全分野の活動事例について

タラセンコ　Ｙ．Ｇ．　沿海地方天然資源・環境保全部
環境計画・放射線安全課　主コンサルタント

１　活動目的

沿海地方は天然資源及び生物多様性に関して、ロシア連邦の中でも特色のある地域である。このため、沿海地方の開発概念において、環境保全及び環境改善は重要な課題である。

沿海地方では「2013 年から 2017 年までの環境保全国家プログラム」が実施されている。このプログラムの目的は環境安全に関する認識向上、環境保護及び改善である。このため、国際環境フォーラム「国境のない自然」やその他の会議、展示会、住民の環境意識を高揚するための事業などを実施し、国際協力を展開している。

環境保全分野においては、市民による環境活動を含め、あらゆるレベルの自治体と民間団体との連携協力が大きな役割を担っている。

この発表では二つの実例を紹介する。

1）沿海地方と富山県の渡り鳥調査共同プロジェクト実施

2）沿海地方の環境安全、環境保護、生物資源の再生に関する公共専門家協議会

２　活動期間

1）　渡り鳥共同調査は 1998 年から、科学的なプロジェクトとしてスタートし、北東アジア地域自治体連合の個別プロジェクトとして実施した期間もあり、いくつかの段階を経てきた。現在、このプロジェクトは、ロシアの民間団体である「アムール・ウスリースク鳥の生物多様性センター」と日本鳥類保護連盟富山支部の努力によって実施されている。このプロジェクトを沿海地方天然資源・環境保全部及び富山県が支援している。

2）　沿海地方における環境安全、環境保護、生物資源の再生に関する公共専門家協議会は、2013 年 7 月、V.V.ミクルシェフスキー沿海地方知事の主導で設置された。沿海地方では、地域の社会・経済発展の優先分野における 17 の公共専門家協議会が設置された。

３　活動対象地域

1）　渡り鳥調査共同プロジェクトの目的は、渡り鳥の移動ルートを調べること、必要な自然保護事業の開発及び実施、次世代への環境教育、沿海地方と富山県の友好関係を強化することである。

上記の課題だけではなく、青少年に自然保護の大切さを認識してもらう教育の必要性を考慮すると、この共同プロジェクトは環境保護の必要性に関する意識啓発にも貢献すべきである。

2）　沿海地方における環境安全、環境保護、生物資源の再生に関する公共専門家協議会（以下「協議会」）は、他の協議会と同じように、恒久的な分析合同諮問機関である。その機関の目的は、沿海地方の政府実施機関と民間団体の相互運用及び、政府実施機関による経営決定の準備及び実施過程において拠り所となる世論を形成することである。

４　活動参加人数

1）　渡り鳥調査共同プロジェクトには約 1000 人が参加した。

2）　協議会は、12 人の会員で構成される。そのうち、3 人が沿海地方知事によって任命され、9 人の会員は一般市民及び専門家の投票によって選ばれる。

５　活動内容

1)　渡り鳥調査を実施している期間中に、極東地方の南方では（2012 年のデータを含めて）172 種類の１４万５千羽の鳥に標識付けが行われ、沿海地方の東海岸沿いにおける鳥の大量移動の拠点が明らかになった。鳥の種類別の移動の戦略、移動の変化が研究され、ある種の個体数減少を含め、渡り鳥の個体数の推移が明らかになった。

ロシアの極東地方では、これまで、このような大規模なスズメの移動調査は行われておらず、得られたすべてのデータは鳥類科学にとって新しい知見である。

富山県と沿海地方の鳥類学の専門家とアマチュアの間に強い友情と協力関係ができた。共同調査の間に、鳥類標識所には、日本から合計 10 団体、50 人以上が訪れた。

2002 年から共同で開発された環境教育プログラムの枠組みで、青少年交流が行われ、富山県と沿海地方の青少年環境施設の小中高生や学生が参加している。沿海地方には、富山県から 15 名が訪れ、富山県には、沿海地方から 18 名の生徒と学生が参加した。青少年以外に、12 人の大人の鳥類学者とアマチュアが富山を訪れた。

この調査のデータを元に、数十本もの科学論文が出版され、中国、ドイツ、ブラジルでの国際鳥類学会で発表されたほか、その他の国際会議で 10 回以上の発表が行われている。

2)　協議会は以下の機能を果たしている。

・住民や市民団体からの提案の収集、統括、分析
・推薦事項の決定
・沿海地方の法律の改善のための提案
・沿海地方の政府実施機関との連絡調整

協議会は以上の機能を実施するために以下の権限を持っている。

・協議会活動分野に関連する課題を解決するためにワーキンググループを設置すること
・沿海地方の政府実施機関の代表者を会議に招くこと
・沿海地方政府及び政府実施機関の活動を改善するために、専門領域内の提案を沿海地方知事に提出すること

６　成果や今後の予定など

1)　沿海地方と富山県及び民間団体の連携、協力により、渡り鳥調査共同プロジェクトを以下の方針で継続する予定である。

鳥の標識付けの実施、環境問題に関心がある青少年の団体交流、その他、プロジェクトを成功させるために必要で、お互いに関心のある行事の実施。

このプロジェクトは、協力関係の良い事例である。富山県の主催で始まったこのプロジェクトは沿海地方政府の全面的な支援のもとで可能となった。その後、「ウラジオストク・富山　国境のない空」というプロジェクトのスローガンを掲げ、自然を総合的かつ十分に研究し自然保護の方法を見い出すことに関心がある関係者の友好関係によってこのプロジェクトを継続することができた。

2)　協議会の成果については、2013 年に設置されたばかりであるため、現時点では、評価することは、不可能である。

協議会は以下の方針で活動を開始する予定である。

・大規模な投資プロジェクトについての環境側面の検討
・地域プログラム、立法行為、環境教育等についての専門的な評価

Ⅱ　事例発表 ①

３　海岸、河川敷利用者への普及啓発活動

金内　美津恵　　山形県庄内総合支庁環境課
海岸漂着物対策主査

１　活動目的

海岸漂着物には、海岸や河川敷におけるレジャー活動から生じるものもある。

河川敷や海岸を現に利用している人を対象として、普及啓発物品の配布及びごみの持ち帰りの呼びかけを行い、海岸漂着物問題を認識してもらうとともに海岸漂着物の発生抑制を図る。

２　活動期間

① 2010～2012 年　9 月または 10 月の一日
② 2011～2012 年　12 月中

３　活動対象地域

① 山形市　馬見ケ崎川河川敷
② 酒田市　酒田港北港水路

４　活動参加人数

① ９～１９人
② １６～２０人（広報車での巡回も含む）

５　活動内容

① 河川敷で芋煮会を楽しむ団体に対し、啓発チラシ入りのポケットティッシュを配布した。手渡しながら海岸漂着物問題について説明し、ごみの持ち帰りの徹底をお願いした。

2012 年は、同じ場所で啓発活動前に地元新聞社主催で実施されていた清掃活動に参加するとともに、他の参加者に対してポケットティッシュを配布した。

② 12 月になるとハタハタが産卵のため接岸し、それに合わせて釣り人が多く押し寄せる。釣り人に直接ごみ持ち帰りを呼びかけ、普及啓発チラシを折り込んだポケットティッシュと、メッセージを印刷したゴミ袋を手渡した。このほかに、広報車を利用してごみの持ち帰りを呼びかける活動をおよそ２週間実施した。

６　成果や今後の予定など

① 芋煮会場には親子連れの団体から若者のサークル、企業の集まりから年配の方を中心とした自治会の集まりまで幅広い年代がいた。ショッピングセンターや市役所ロビーなどで行うパネル等展示による普及啓発活動では、対象が親子連れや公務関係者中心となるが、そのような会場では会えない、若者や企業で働く男性と対話する機会が持てる有意義な事業となった。また、新聞社主催の清掃活動に参加している環境意識の高い方も対象とできたことは、海岸漂着物対策の活動のすそ野を広げることにつながる。今後の実施は未定。

② 以前に比べると散乱ごみの量が減り、釣り場周辺でごみ拾いのボランティア活動を続けてきたＮＰＯ法人も成果を実感している。今年度も実施予定。

芋煮会場

芋煮会参加者へポケットティッシュを手渡し

釣り人への呼びかけ

広報車

釣り人に配布したごみ袋の図柄

Ⅱ　事例発表 ②

１　黒龍江省における環境ＮＧＯの活動状況

伍　　躍　輝　　黒龍江省環境監測センター長

黒龍江省では、環境 NGO の活動がさまざまな形で展開され始めたことは、我が省における９０年代後半に環境保全分野で起きた大きな出来事であり、市民が自発的に集まって組織的に持続可能な環境保全活動に参加する現れである。黒龍江省では、現在、政府部門に正式登録した環境 NGO の数は３２まで増え、環境保全の関連分野を完全にカバーし、客観性・現場性・広範性と高い科学性を備えたため、政府の認可と市民の支持を得ている。

ここ数年、環境 NGO が盛んに発展し、我が省における環境保全ボランティア協会の会員数は１５万人に達し、会員たちは黒龍江省の１４の市で活躍し、環境保全に関する国家の政策を宣伝したり、環境保全活動を参加したりして、積極的に役割を果たしている。この環境保全ボランティア協会は１５年連続して“黒龍江省における新世紀の環境保全”活動を行い、また、「母なる川・黒龍江を守る」、「エネルギーを節約し、廃棄物排出を減らし、生態学の文明を構築する」をテーマにする活動を実施することによって、また、世論と市民によるモニタリングを利用して、政策・法規の制定に参与し、政府による環境保全のプロジェクトの実施を監督し、我が省における環境保全事業の推進にますます重要な役割を果たすようになっている。

黒龍江省環境保全ボランティア協会は、科学技術界、文芸界、マスメディア、教育界、企業及び著名人と連携し、一連のさまざまな形式の環境保全宣伝教育活動を展開してきた。省婦人連合会と一緒に「グリーン家庭」、「グリーン・ヤングボディーガード」の選出活動を行い、また、国際グリーンピースと連携して「大豆の故郷を守り、生物災害管理システムを構築する」活動を行った。さらに、環境ボランティア育成基地を設立し、「環境教育新聞」と「グリーン天使通信簿」などの環境保全に関する刊行物を出版した。このような活動は、より市民の生活に密着したものであるため、市民の理解と支持を得やすくなっている。

市民と社会団体がどれぐらい環境保全活動へ参加してるかが、国民の環境意識の高さと社会の生態文明の程度を体現している。環境 NGO の一層の発展が国民の環境権益の保護に役立ち、政府の政策決定の民主化・科学化の推進に寄与し、政府・企業・市民の環境権益を調和することもできる。

環境保全事業の従事者と参加者として、我が省における環境 NGO が環境保全に一定の貢献を果たしていることを心より喜び、これから、さらに国際交流を通じ、諸外国の環境分野における素晴らしい経験を吸収すると同時に、私たちが活動から得た経験を他の自治体にも紹介していきたいと考える。

Ⅱ　事例発表 ②

２　広徳山環境教育センター設立における民・官協力事例

車　守澈　　広徳山環境教育センター局長

1　活動目的

“ 人と自然は一つ、教育は我々の未来である!”というスローガンの下で“ 自然の中で学び、自然に戻る環境学校”を教育の価値とし、市民の環境教育を通じて持続可能な地球、住みやすい地域づくりを目的に、 2009 年 6 月に開館した。

2　概要

○ 住所 ：忠清南道天安市東南区広徳面/里 537 番地 （教育研究施設）

☏82-41-572-2535 Fax82-41-572-2592

E-mail; ca@kfem.or.kr　http://www.natureschool.or.kr/

○ 建物 ： 大地面積 1,590 ㎡、延べ面積 719 ㎡(地下 1 階、地上 2 階の構造)

○ 施設 ： 教育講堂、展示室、草花図書館、宿舎(40 名受容可能)、森の中教室、環境農場、森の探訪路など

○ 組織 ： 運営委員会(委員長　イ・ゼヨン・公州大学校環境教育科教授の外 10 名)

○ 団体種別 ： 忠清南道登録(2010-338 号) 非営利民間団体

3　設立過程

広徳山環境教育センター(以下‘ センター’)は非営利民間団体である天安牙山**環境運動連合**(Korean Federation for Environmental Movement‘ Cheonan-Asan’)の持続可能なグリーン都市作りビジョンとして 2000 年に始まり、2009 年に建てられた専門的な環境教育機関である。また、センターは忠清南道や天安市そして、 500 名以上の機関、団体、市民の寄付金や才能寄付（専門知識や技術を生かしたボランティア）、現場での建築ボランティア活動などを通じて建てられた韓国環境教育の貴重な財産であり、民・官協力の貴重な成果である。

4　センターの特徴

○ 民・官が連携した国内初の専門的な環境教育機関として設立

○ 市民参加による建設財源の確保、教育プログラム開発、指導者養成を通じた運営体系の構築

○ 市民の環境教育、教材や教具の開発及び普及、プログラム研究、ネットワーク構築などの総合型環境教育センター

○ 建築物の主な材料として土を使用し、地熱と自然浄化システム、太陽光と風力発電システム、屋上緑化や地下の自然採光を導入するなど、人と自然にやさしく、環境に配慮した施設を実現

5 活動対象地域

当センターは忠清南道天安市(人口 60 万人)に位置し、近隣の牙山市(人口 30 万人)と世宗特別自治市 (se jong) (人口 12 万人)を主な圏内とし、周辺の大田広域市 (dae jeon) や清州市 (cheong ju) , ソウルや首都圏の教育需要を対象にしている。

6 活動参加人数

2012 年の年間稼働率は 172 日(47%)で、教育人数は 450 回、約 23,000 人、主要教育対象は幼児、小・中学生や一般成人など様々である。

7 活動内容

○ 市民環境教育(森の生態教育、気候変動-エネルギー教育、資源のリサイクル教育など)

○ 環境教育指導者(講師) 養成

○ 環境教育教材や教具開発を通じた忠清南道の関連機関への普及活動

○ 口育庁、環境教育民間団体などと忠南環境ネットワークウオーキングの推進

8 成果や今後の予定など

○ 忠清南道環境教育振興条例(2010 年)に基づく‘ 忠清南道環境教育センター’ に指定(2013 年)

○ 韓国環境部の幼児環境教育館委託機関に選定(2013 年)

○ 忠南環境教育ネットワーク事務局と共に忠南環境教育祭を開催

○ 2015 年‘ 幼児森体験院’ 建設計画を推進

Ⅱ　事例発表 ②

３　ハバロフスク地方政府の民間環境団体との協力について	
ヴェセロフスカヤ 0.V.	ハバロフスク地方天然資源省 環境保全委員会副委員長 天然資源省環境政策・ 環境モニタリング課　課長

１　活動目的

環境保全・環境安全の分野においての相互協力

２　活動期間

毎年

３　活動対象地域

ハバロフスク地方

４　活動参加人数

２１万人

５　活動内容

ハバロフスク地方の自然保護政策において最も重要な方針は、環境問題を解決するために、住民と環境団体を参加させることである。それに関連して、環境保全分野では、市民団体の参加のもと、法的基準が開発されている。住民及び民間団体の代表者は、知事、政府、天然資源省が設置する諮問委員会、評議会（ワーキンググループ、委員会）の構成員あるいは公共環境検査官として参加している。ハバロフスク地方政府は住民や民間団体に対して、金融、情報、コンサルティングなどに関して、支援を行っている。率先して取り組む意識が高い住民や環境団体はハバロフスク地方政府が開催する環境アクション、事業等に積極的に参加している。

６　成果と今後の予定

ハバロフスク地方だけではなく、他の国の自治体の専門家と民間団体とが連携協力することによって、自然保護活動がより一層活発になっていくと考えられる。

Ⅱ　事例発表 ②

４　エネルギーの地産地消による地域の活性化を目指して 柴田　　時和　　一般社団法人 でんき宇奈月プロジェクト　理事 （ＬＥＮＳ株式会社　代表取締役社長）

１　活動目的

宇奈月温泉において、自然エネルギーとＥＶバスによる公共交通事業を導入し、宇奈月温泉を先進的なエコ温泉リゾートとして観光客を誘致するとともに、エネルギーの地産地消による自立した地域づくりを推進する。

２　活動期間

2009 年　4 月　～　現在にいたる。

３　活動対象地域

富山県黒部市宇奈月温泉を中心に活動。

４　活動参加人数

現在一般社団法人として 24 名の会員で運営している。

５　活動内容

・宇奈月温泉の将来ビジョンやまちづくりのコンセプトを提案
・地域が主体となった取り組みとなるよう各種の講演会開催
・地元リーダー育成を目的としてワークショップの開催
・ＥＶの開発と運用
・小水力発電装置の設置
・ＬＥＤ照明などを用いたエネルギーの地産地消の試行と提案
・取り組みを通した宇奈月温泉の県外への宣伝告知
・新ビジネスの創出

６　成果や今後の予定など

【エコ温泉リゾートとしての理念等の提案】

【理　念】

黒部と共に生きる
黒部とは私たち。黒部の大自然と共生し、そして活用し、ここでしか味わえない山岳・温泉エコリゾートとしての異日常・非日常空間を提供することにより、世界中の観光客を魅了するまちづくりを環境・健康・絆を柱として進めていく

【目　標】

宇奈月温泉を世界有数の山岳・温泉エコリゾートにする
環境に負荷をかけないかたちで、山と温泉のレジャーと健康づくりのメニューを多彩に提供することにより、人と人との絆が深まり、それで何度も訪れたくなる宇奈月温泉とする
黒部を自然エネルギーの聖地とする

【コンベンション・講演会・ワークショップ等】　抜粋

2010 年 10 月　低炭素社会型観光まちづくり講演会開催

2011 年 1 月より　宇奈月温泉まちづくり講演会開催

2012 年 5 月　行政・市議会との意見交換会

2013 年 7 月より　ワークショップ開催

他、多数開催

【ＥＶ、小水力発電】　抜粋

2011 年 8 月　EV バス展示試乗会開始

2012 年 3 月　改造 EV 実証運行開始

2012 年 8 月　EV バス実証運行開始

2012 年 1 月　小水力発電実証実験開始

2013 年 11 月　小水力発電装置設置工事開始

【新ビジネス創造】

2011 年 3 月　ＬＥＮＳ株式会社設立

再生可能エネルギーの利活用をパッケージで提供

2012 年 9 月　ジオエナジー株式会社設立

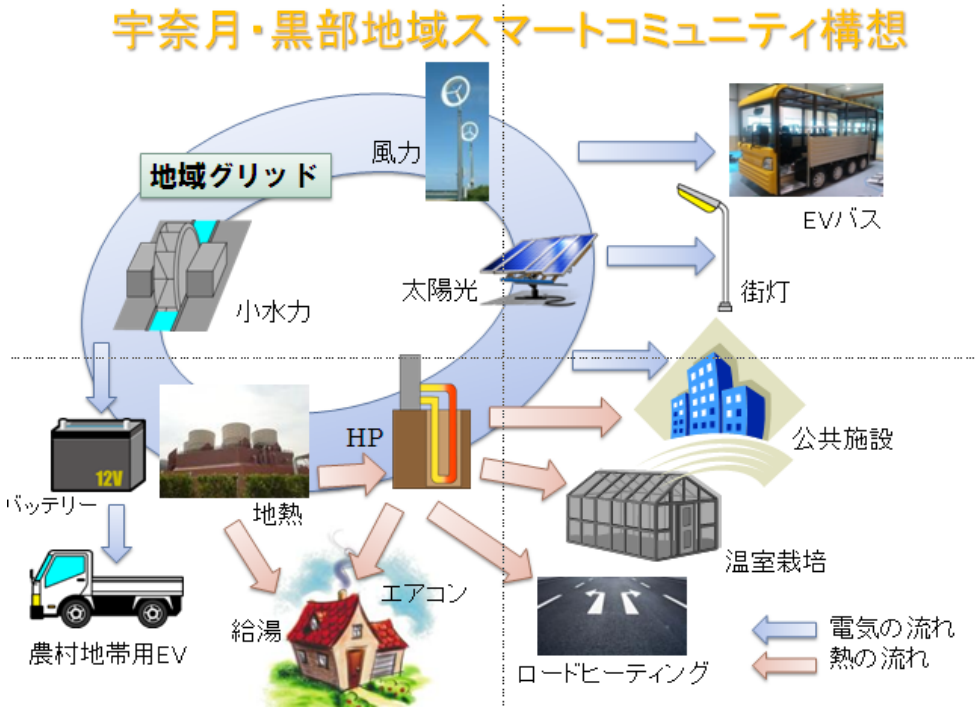
地中熱利用ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ等の自然エネルギー利用の啓発と販売

【今後の展開】

・黒部市自然エネルギー環境都市づくりの活動

・低炭素社会に対応した地域産業の育成、再生可能エネルギー関連産業クラスターの形成

・宇奈月温泉がエコ温泉リゾートとして世界的に認知されるまちづくりを住民自ら実践する主体形成に向けての活動



Ⅲ　現地説明会

１　NPO 法人森林総合支援センターの紹介
鶴　巻　　登志広　　ＮＰＯ法人 森林総合支援センター理事長

１　活動目的
幼稚園児から成人に対して，自然環境教育に関する事業を行い、環境保全の啓蒙に寄与する事を目的とする。（森林総合支援センター定款第２章第３条）

２　活動期間
四季それぞれ、その時期にふさわしい活動を行う。以下は代表例
春：天ぷらツアー（芽吹いたばかりの野草や樹木の新芽を摘んで天ぷらで味わう）
夏：高山植物観察会（3000m 級の立山で短い夏を謳歌する植物達の観察会を実施）
秋：一年の集大成を迎えた森の観察会（キノコや木の実等を採取したり、四季がある日本の森で季節による違いを感じる）
冬：カンジキ体験（見通しのいい冬の森をカンジキを履いて散策し、冬芽や動物の足跡観察）
通年（冬を除く）：ツリークライミング体験会・森の整備・ナチュラルクラフト

３　活動対象地域
じゅげむの森（富山市）・雑木囃子の森（砺波市）が主たる活動場所
森を学ぶ自然塾は、富山県内、岐阜県内の森林・森林公園・高原・湿原・国定公園等

４　活動参加人数
・自然塾（大学生以上）は 30 名を上限として募集を行う。
・ツリークライミング体験会は場所と利用する樹木の枝振りにもよるが、20 名から 30 名の方々（小学生以上）に体験してもらう事を目標としている。
・森の整備は安全面も考慮して 10 名以内で実施する。動力付きの機械（チェンソー等）は安全講習済みの有資格者が使う

５　活動内容
以下の 3 点を活動の柱として環境に関する活動を実施している。
１、**森を守る**：森林を観察して、その森林にあった整備目標を立てて、それに従い森林整備を行っている。

〇安全講習会

〇歩道作り

〇ササユリの咲く森作り

２、**森を学ぶ**：インタープリター養成講座で養成したインタープリターが１００名超、森林インストラクター、樹木医、環境再生医、地球温暖化防止活動推進委員等の有資格者が会員として、または協力員としているので、活動の内容にあった指導者を活用して，様々な内容の森林の仕組み、役割、動植物の解説等の学びを自然塾で実施している。

〇森林全体の講義　　〇森と人との関わり　　〇植物の解説

３、**森で遊ぶ**：整備した森の中で三次元的な空間を活かした遊びを行い、遊びの中から森林の楽しさを味わい、森林についてさらに興味を持ってもらえるきっかけ作りをする。ナチュラルクラフトインストラクターやツリークライミングでは、ファシリテーター、ツリークライマー等が指導にあたる。

〇ツリークライミング　　〇ナチュラルクラフト　〇森の中で遊ぶ

６　成果や今後の予定など

成果：２００６年に NPO 法人として活動を開始、６年間実施した「インタープリター養成講座」では前述のように１００名を超えるインタープリターを養成し、今は自然塾の講師として活躍している人や、学んだ事を活かしてそれぞれの地域で NPO 法人を設立したり、任意の活動団体を立ち上げて活躍している人がいることは、森林総合支援センターとしてはすばらしい成果だと自慢できる。

また、２０００年から活動している「雑木囃子」という任意団体を森林総合支援センターの傘下団体として取り込み、未就学児童を持つ、若い夫婦を対象として「子育て支援塾」を２０１１年４月から活動を開始している。

子ども達を自然の中で遊ばせることで、遊びの工夫や遊びに使う道具なども工夫して作るクリエイティブ（創造的）な感性を養う事ができる。
また、森の中にいる小さな生き物にふれ、植物と接する事で人間以外の物を慈しむ心も醸成される事を期待して活動をこれからも続ける。

課題　：運営スタッフの確保や PR の方法が未成熟
活動資金の調達方法（助成金・会費収入・事業収入）の充実を図ること

Ⅲ　現地説明会

２　漂着物アート制作体験会について

藤井　治紀	公益財団法人砺波市文化振興会･砺波市美術館 「子どものぞうけいアトリエ」彫刻家
藤崎　　進	公益財団法人環日本海環境協力センター 調査研究部長

１　活動目的

海岸に漂着する海洋ごみ（海岸漂着物）を利用したアート作品の制作などを通して、

①子どもたちが海岸漂着物の実態や海洋環境保全について学習し、その原因となるごみを出さないため行動を自ら実践していくきっかけとする。

②市民が海岸漂着物に関心を持ち、海洋環境保全への理解の促進と行動の実践を促す。

２　活動期間

2013 年　4 月～

３　活動対象地域

富山県及び近隣県（石川県、福井県）

４　活動参加人数

104 名（2013 年 10 月現在）

５　活動内容

子どもたちが、地域の海岸において漂着物調査及び海洋環境保全学習を行うとともに、漂着物を利用したアート作品を制作する体験会を開催する。

⑴　実施主体及び参加者

・実施主体：（公益）砺波市文化振興会･砺波市美術館、（公財）環日本海環境協力センター

・参加者：小学生及び保護者等

⑵　アート制作体験会の実施内容

① 海岸に流れ着いたごみの調査（１時間半程度）

② 漂着ごみに関する勉強会（３０分程度）

③ 漂着物を使ったアート作品の制作（２時間半程度）

６　成果や今後の予定など

・本年は、ロシア沿海地方（ウラジオストク市・ナホトカ市）での実施の他、6 月から 10 月にかけて、延べ 18 回開催。参加人数は約 420 名。

・海外（北東アジア地域）の自治体での試行を通じて、ノウハウを積み、海外展開を図る。

Ⅳ　意見交換会

・全体質疑 ・意見交換 ・座長取りまとめ